

事業（会務）報告

1. 会員の状況

2018年3月1日現在の社員（会員）総数は、9,964名で会員の種別・増減内訳は下記のとおりである。 注：（ ）内は、2017年3月1日現在の会員数を表す。

会員総数	9,964名	(10,020名)	-56名
種別内訳：			
一般会員	8,560名	(8,697名)	-137名
評議員	1,011名	(966名)	+45名
名誉会員	56名	(56名)	[国内29名(29名) 国外27名(27名)]
功労会員	157名	(151名)	+6名
購読会員	180名	(150名)	+30名

年間会員増減：

(2017年3月1日～2018年2月末日)

● 新入会	385名	(430名)	-45名
● 再入会	6名	(11名)	-5名
△ 退会者	427名	(360名)	+67名

(定款第9条第1号希望退会者 241名，同条第2号による退会者 186名)

2. 2017年度事業報告

1) 総会・学術集会

第61回日本リウマチ学会総会・学術集会

2017年4月20日 ～ 4月22日 福岡市 会長 三森経世

2) 支部学術集会

第27回北海道・東北支部集会	11月	24, 25日	山形市	会長	高木理彰
第28回関東支部集会	12月	9日	新宿区	会長	當間重人
第29回中部支部集会	9月	8, 9日	金沢市	会長	川野充弘
第27回近畿支部集会	9月	2日	大阪市	会長	西本憲弘
第28回中国・四国支部集会	11月	24, 25日	徳島市	会長	西岡安彦
第53回九州・沖縄支部集会	3月	11, 12日	別府市	会長	堀内孝彦
第54回九州・沖縄支部集会	9月	2, 3日	北九州市	会長	田中良哉

3) 理事会

2017 年度定例理事会を 5 回開催した。主要審議事項は次のとおり。

(定時理事会は土曜日または日曜日に開催)

第 1 回理事会 (4 月 19 日水曜)

定例評議員会、総会承認事項の審議 (事業報告、決算・監査報告、予算審議、名誉会員・功労会員・評議員の選任、第 64 回学会長選出、内規・細則・規定の一部改定)、第 8 期役員の選任、委員会の重複数について、専門医制度について、バリシチニブの PMS に関して、超音波講習会運営業者の変更について等

第 2 回理事会 (7 月 2 日日曜)

第 61 回学術集会収支報告、第 62 回学術集会準備状況について、委員会委員について、研究倫理教育にかかる提案について、診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンスについて、バリシチニブの PMS に関して、アセトアミノフェンの未承認薬・適応外薬の要望書提出について、日本リウマチ学会の新しい活動について、次世代リウマチ学検討委員会の設置について等

第 3 回理事会 (8 月 20 日日曜)

2017 年度教育施設認定について、第 61 回学術集会の収支・結果報告について、第 62 回学術集会準備状況について、2019 年学術集会開催日程の変更について、専門医制度の一部改定について、関連学会の申請について、専門医整備指針について、委員会規則の改定について、倫理委員会の設置について、ICD 制御協議会への加盟について、小児期シェーグレン症候群診療の手引きについて、学会賞・奨励賞選考委員の委嘱について等

第 4 回理事会 (11 月 12 日日曜)

第 62 回学術集会準備状況について、評議員資格の維持継続について、ベーシックリサーチカンファレンスについて、ベリムマブ使用ガイドラインについて、小児 SLE 診療の手引き 2017 について、登録ソノグラファーの新規登録および更新の審査結果について、専門医研修整備基準案について、JCR2019 と JCR2021 の会場と日程変更について、2018 年度予算について等

第 5 回理事会 (2 月 3 日土曜)

2018 年度定例評議員会・総会の日程について、2017 年度決算および 2018 年度予算について、指導医・専門医の認定について、第 62 回学術集会開催準備状況について、第 65 回学術集会 (2021 年度) 学会長推薦について、名誉会員・功労会員・新評議員の推薦について、役員選任内規の改定について、専門医制度規則の改定について、ホームページのリニューアルについて、市民公開講座の開催方式について、臨床研究推進委員会の設置について、乾癬性関節炎ハンズオンプログラムに関する要望について等

4) 学会誌

(1) 学会誌 Modern Rheumatology (MR) を年 6 回定期刊行、およびオンライン版 MR Supplement (学術集会英文抄録集) を年 1 回刊行した。

(2) 編集委員 11 名を含む Transmitting Editor 合計 36 名にて電子投稿査読システム

Editorial Manager を活用し、投稿論文の公正かつ速やかな査読行程に努め、掲載論文の質の向上に努めた。

- (3) 2016 年の Impact Factor (IF) は 1.818 であった (6 月 15 日発表)。
- (4) 2017 年 1 月に Online ジャーナルとして Modern Rheumatology Case Reports (MRCR) の第 1 号を発行した。今年 1 月には 2-1 号を発行し、創刊から既に 56 編の論文を出版している。
- (5) 6 月に EULAR(マドリッド), 10 月に APLAR(ドバイ)で JCR のブースを出展し、ジャーナルのプロモーション活動を行った。

5) 専門医制度

- (1) 2018 年度から基本領域学会で開始される新専門医制度に向け、一般社団法人日本専門医機構 (機構) へ、カリキュラム制による研修期間 3 年以上とした「リウマチ専門研修整備基準」を提出し承認を得た。また、サブスペシャリティでも 2019 年から新制度が開始されることをうけ、整備指針に沿った「新専門医制度規則案」を策定。既存規則についても研修期間を 5 年から 3 年とするなどの改定案を策定した。
- (2) 2017 年度認定の教育施設として、新規 26 施設、更新 188 施設を認定した。この結果、2017 年 9 月 1 日時点での日本リウマチ学会認定教育施設は 580 施設 (前年比 +5) となった。
- (3) 第 31 回専門医資格認定試験を 2018 年 1 月 14 日 (日) にソラシティカンファレンスセンター (東京) で実施した。受験者は 159 名 (前年 133 名) で、合格者は 129 名 (同 106 名)、合格率は 81.76% (同 82.17%) であった。
- (4) 2018 年 3 月 1 日付けで 専門医・指導医の資格更新の認定を行った。リウマチ専門医は 4,732 名 (前年比 +50 名)、指導医は 1,425 名 (同 +187 名) である。特に指導医は 2016 年度の規則改定により例年の倍以上の申請があった。
- (5) 専門医研修カリキュラムを適宜改訂した。また内科学会、整形外科学会、小児科学会等の研修プログラムを参照したうえでリウマチ学会独自の専門性の高い研修プログラム作成のための準備を進めた。

6) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 国際シンポジウムは「シンポジウム国際委員会企画」として 3 セッションを企画し、計 13 の講演が行われた。
- (2) 国際コンカレントワークショップは、より多くの聴衆に興味をもってもらうために年齢制限は設けないようにし、また Basic/Clinical 関係なく内容別にセッションを振分け、1 枠 60 分前後とし 22 枠設けた。
- (3) 61 回学術集会において「JCR 2017 Travel Award」を募集した。Award には 10 カ国 38 名から 46 演題の応募があり、9 カ国から 24 演題 (24 名) を選出した。また、若手会員 (45 歳未満) を対象とした「国際ワークショップ賞」は、審査対象 100 演題を JCR 国際委員会および国際委員会サブコミッティによる査読の結果、29 演題 (29 名) を選出した。
- (4) 「JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラム 2017」を企画し、応募者の

中から長期トレーニング希望者1名を選出した。選出者にはトレーニングプログラム助成金として300万円が支弁される。

- (5) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者の育成を目的とした「JCR 国際育成セミナー2017 (JCR International School 2017)」を8月3～5日、軽井沢プリンスホテルウエストにおいて開催した。セミナーには国内から14名、海外から8名の若手研究者が参加した。
- (6) APLAR 2017 (ドバイ) に演題投稿した45歳未満のJCR会員を対象にしたトラベルグラントを実施し、15名にトラベルグラントとして15万円/名を支弁した。
- (7) 海外関連学会との連携、JCRの広報を目的としてAPLARとEULAR (マドリッド) にJCRのプロモーションブースを出展した。

7) 教育研修会の開催

- (1) 全国規模の教育研修会として、4月23日にアニュアルコースレクチャー(福岡市)、8月27日に全国中央教育研修会東京大会、12月10日に同大阪大会を開催した。
- (2) 第4回ベーシックリサーチカンファレンスを10月13日(金)、14日(土)にアキバホールにおいて開催した。今回のカンファレンスには過去最多となる211名が参加し、特別講演や教育講演、また次世代リーダーセッションのほかポスターセッションなどが行われた。特別講演には京都大学 iPS 細胞研究所の山中伸弥所長と大阪大学の審良静男教授という再生医学と免疫学の世界のトップリーダーお二人をお招きし、ノーベル賞受賞者や引用回数世界一に輝く先生から直接メッセージを受け取ることができる貴重な機会となった。またポスターセッションには、昨年を上回る56題の演題が集まり、ポスターを前にして活発な討論が行われ、新たな試みとして8演題を優秀ポスターとして選出。優秀演題セッションに選出された3演題と共に表彰を行った。
- (3) 各支部主催による「関節超音波初心者向け講習会」を実施した。開催にあたっては関節リウマチ超音波標準化小委員会で策定した「関節超音波検査初心者向け講習会開催指針」に基づき実施され、関節超音波の普及を推進した。
- (4) 10月7～9日に関節エコーの上級者を対象とした「関節超音波検査講習会アドバンスコース」を開催した。アドバンスコースには全国から40名が参加。リウマチ性疾患の確定診断・鑑別診断、治療効果判定、寛解判定においても多くの臨床情報が得られる関節超音波診断学の高度な技術を習得できる講習会となった。
- (5) 2014年度から開始した「登録ソノグラファー」制度は、本年度、関節超音波検査に関する十分な学識と経験を有する医師及びコメディカルスタッフ62名を新たに登録し、149名の登録更新を行った。

8) その他

- (1) メトトレキサート使用下の関節リウマチ患者に発症するリンパ腫およびリンパ増殖性疾患に関する我が国の実態を調査し、今後の薬剤適正使用に役立てることを目的に「関節リウマチ患者におけるリンパ増殖性疾患に関する研究」を実施した。また、日本リウマチ学会と日本病理学会ならびに日本血液学会の3学会による合同意見交換会を開催し、3学会の推薦メンバーで構成するワーキンググループを立

ち上げ RA-リンパ腫/LPD の診断，治療に関するガイドライン・指針・手引きの作成に向けた活動を開始した。

- (2) 2016 年度総会で承認された評議員の資格維持に関する内規の改定について，学会ホームページ，メールマガジンを通じて広報し，その遵守を依頼した。また資格維持継続が審議対象となりうる方には個別に案内を送り，内規の遵守をお願いするとともにこれまで以上に学会運営に協力していただきたい旨を依頼した。
- (3) 支部に関する本部規定の改定に従い，支部学術集会の予算書提出を各支部代表に求め，理事会で審議承認する体制を整えた。

3. 2018 年度事業案

1) 総会・学術集会

- (1) 第 62 回日本リウマチ学会総会・学術集会を 2018 年 4 月 26 日(木)～28 日(土)の 3 日間，東京国際フォーラム（東京都千代田区）において齋藤知行会長のもとで開催する。
- (2) 第 63 回日本リウマチ学会総会・学術集会（2019 年 4 月 16 日～18 日，京都国際会館）の準備を，山中寿会長のもとで進める。

2) JCR 学会誌

- (1) MR 論文の質の向上と引用の増加を図り，更なる国際的展開を進める。
- (2) Taylor & Francis 社の下，安定した出版/発行に努め，年 6 回定期発行する。
- (3) 英文抄録集は学術集会の演題登録時に英文抄録を義務付け，MR Supplement として年 1 冊/回オンライン PDF 掲載として発行する。
- (4) 国際学会にて MR および MRCR のプロモーション活動を精力的に行い，欧米からの投稿数増加を促す。
- (5) MRCR は PubMed への早期収載とインパクトファクターの早期取得に尽力する。

3) 専門医制度

- (1) 専門医制度委員会が恒常的に行ってきた指導医の新規認定・資格更新業務，教育研修会の認定業務を引き続き実施する。
- (2) 機構が示す「専門医制度整備基準」に則り，2019 年 4 月から施行される新専門医制度による研修開始に向け，日本内科学会や日本整形外科学会等の基本領域学会，内科系 subspecialty 13 学会等の他の学会と連携し準備を進めていく。
- (3) 2018 年度専門医資格認定試験を 2019 年 1 月 20 日(日)，ソラシティカンファレンスセンター（東京御茶ノ水）で実施する。

4) 国際化の推進と若手の育成

- (1) 一層の国際化推進のため，学術集会での英語セッション枠を増やしていく。
- (2) 海外の 45 歳未満を対象とした JCR International Workshop Travel Award（アジア諸国一人 1,000 US ドル，アジア諸国以外一人 1,800 US ドル）を継続して実施する。また，同じく 45 歳未満の会員を対象とした国際ワークショップ優秀演題賞（ICW Excellent Abstract Award）も継続して実施する。
- (3) JCR International Advisory Board Meeting を第 62 回学会・学術集会期間中に開

催する。

- (4) 2018 年度 JCR-EULAR 若手リウマチ医トレーニングプログラムの募集を行う。
- (5) 国際的に活躍できる若手リウマチ学研究者を育成するための国際育成セミナーを開催する。
- (6) 高雄（台湾）で開催される APLAR 2018 に演題を投稿する 45 歳未満の JCR 会員を対象にトラベルグラントを設け、最大 15 名にグラントとして 15 万円を支弁する。
- (7) 学会広報活動として、APLAR, EULAR 及び ACR に JCR のブースを展示する。

5) その他

- (1) 昨今のビッグデーや A I の流れに追いつくことが必要であることから、JCR が率先して若い研究者を中心とした委員会を設置し、将来的に画像や診断技術への応用などに取り組める体制を整える。
- (2) 臨床研究のレベル向上と臨床研究法に準拠する形での知識の共有化を図るため臨床研究推進委員会を設置する。
- (3) 62 回学術集会において「医学部学生・初期臨床研修医セッション」を新たに企画し、入会前でも発表可能で登録費も無料とするなど、膠原病内科医または整形リウマチ医をリクルートする活動を進めていく。

付記：評議員会及び社員総会の議案資料

第 1 号議案 2017 年度事業報告および 2018 年度事業計画

第 2 号議案 2017 年度(2017 年 3 月 1 日から 2018 年 2 月 28 日)決算書

第 3 号議案 2018 年度(2018 年 3 月 1 日から 2019 年 2 月 28 日)予算書

第 4 号議案 規則および内規の一部改定

以上の議案を別冊として評議員会及び社員(会員)総会の開催案内と共に事前に会員各位に送付した。